



# 共生社会システム学会ニュースレター

## The Association for Kyosei Studies News letter

2023年4月14日発行 第31号

### 目 次

1. 2023年大会（宇都宮大学）の開催について .....	1
2. 2022年度第2回運営委員会議事概要の報告 .....	2
3. 2022年度第2回大会実行委員会議事概要の報告 .....	3
4. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ .....	4
5. 学会内研究会について.....	4
6. 運営委員会事務局だより.....	5
7. 会費納入のお願い.....	6

## 1. 2023 年度大会（宇都宮大学）の開催について（第 2 報）

2023年度大会（宇都宮大学）を、以下の要領で対面にて開催いたします。会員各位の積極的なご参加をお願いします。

大会の各資料は紙媒体では配布せず、事前にウェブサイトからダウンロードしていただきます。会場でWiFiは使えませんのでご注意ください。

- ・日程：2023年9月16日（土曜）～17日（日曜）
- ・会場：宇都宮大学農学部（峰キャンパス）

### ・プログラム

- 9月16日（土曜） 13:00～ 総会  
14:00～ 大会シンポジウム  
18:00～ 懇親会
- 9月17日（日曜） 9:30～ 一般報告、会員企画ワークショップ  
13:00～ 学会内研究会ワークショップ

○参加費：正会員 2,000円，学生会員 1,000円，非会員 2,500円，学生非会員 1,500円

※非会員の方々も、シンポジウムのみであれば無料で参加できます。

○懇親会費（予定）：一般（正会員ほか） 4,000円，学生 2,000円

### ・シンポジウムのテーマ

「ポスト福祉国家とサードセクターを考える ―社会的事業者を中心に―」（仮題）

座長：柏雅之（早稲田大学），古沢広祐（國學院大學客員教授）

#### 第1 報告

「ポスト福祉国家のサードセクター」（仮題）

報告者：向井清史（名古屋市立大学名誉教授）

コメンテーター：古沢広祐（國學院大學客員教授）

#### 第2 報告

「日本の農山村再生と社会的企業」（仮題）

報告者：呉鳶（愛国学園大学）

コメンテーター：矢口芳生（福知山公立大学名誉教授）

#### 第3 報告

「脱炭素・環境共生社会とサードセクター」（仮題）

報告者：高橋若葉（宇都宮大学）

コメンテーター：林田朋幸（帝京大学）

#### ・個別報告・会員企画ワークショップの募集

大会での一般報告および会員企画ワークショップを募集いたします。どちらも9月17日（日）午前の開催を予定しています。

一般報告及び会員企画ワークショップを希望される会員は、学会ホームページの「2023年大会」ページより「申し込み要領」を参照し、以下の文書を6月30日（金曜日）までにご提出下さい。

○個別報告（一般報告）：報告申請書，報告要旨

○会員企画ワークショップ：開催申請書，企画趣旨

筆頭報告者が会員であるなど，受付のための要件を確認した上，認められた報告・企画につきましては，報告内容資料（様式自由）を，9月9日（土）までにご提出いただきます。

※上記の個別報告要旨，WS企画趣旨，および報告内容資料は，事前に大会ホームページ上で公開します。

学会ウェブサイト：<https://www.kyosei-gakkai.jp/>

提出先：大会実行委員（個別報告・会員企画ワークショップ担当）

武谷嘉之 taketani☆nara-su.ac.jp（☆を@に変更して送ってください）

締切：2023年6月30日（金曜日）

---

## 2. 2022 年度第 2 回運営委員会 議事概要の報告

第2回運営委員会が下記の日程で開催されました。

日時：2023年3月21日(火曜祝日) 17:00～18:45

場所：オンライン

出席者（敬称略）：朝岡，柏，植木，岡野，安藤，桑原，稲村

欠席者（敬称略）：古沢，オブヒュルス鹿島，武谷

報告事項：

- 1) 入退会について岡野運営委員長から報告を行った。
- 2) 編集委員会報告として、安藤編集委員長から審査状況の報告および下記の事項について報告と確認を行った。
  - ・第17巻のタイトルは、シンポジウム論題のメインタイトル「変質する資本主義と共生社会形成の担い手」とし、サブタイトルは含めない。
  - ・今後ニュースレターで投稿時に字数制限を厳守するよう会員に呼びかける。
  - ・将来的に現行の11月1日に加え5月1日にも投稿締切を設け、早期に受理証明を出せるタイミングで査読を行う。
  - ・現在検討中のJ-Stage掲載については、個々の投稿原稿は基本的に掲載する方向とし、何らかの事情で掲載を望まないまたは延期したいといった意向が投稿者から示された場合、個別に検討する。

審議事項：

- 1) 2023年度宇都宮大会について、下記の事項を審議・決定した。
  - ・個別報告の割当時間は原則として質疑・交替込みで1人当たり30分とする。
  - ・シンポジウム登壇者は、向井先生・呉先生・高橋先生の3名を基本に検討する。
  - ・シンポジウム登壇者への謝金について検討した。
  - ・今大会では、学会からの支出額は10万円とする。来年度以降は大会開催予算を踏まえてシンポジウムの論題・登壇者等の検討を行うこととする。
  - ・学生アルバイト代は、大会開催当地の最低賃金を踏まえ、適切に設定する。
  - ・懇親会開催は、4月以降の状況は不明であるが、現状では学内開催はできないため、学外での開催も検討する。
- 2) 2024年度大会の審議を行った。引き続き検討を行う。
- 3) その他、下記の事項について確認した。
  - ・ニュースレターは2023年度大会の詳細が決定してから発行する。
  - ・学会誌のJ-Stage掲載については、次回の運営委員会で検討する。
  - ・農林統計出版との業務委託契約について、理事会の承認を得た上で実行することとした。
  - ・次回運営委員会は6月10日（土曜）17:00～19:00開催とする。

---

### 3. 2022 年度第 2 回大会実行委員会議事概要の報告

運営委員会に続けて、第2回大会実行委員会が開催されました。

日時： 2023年3月21日 19：00～20:10

場所：オンライン

出席者：秋山，稲村，植木，岡野，柏，呉，林田，古沢（50音順，敬称略）

議題：2023年度大会の準備について

岡野運営委員長が直前の運営委員会の議題について報告し、その後に下記事項を審議した。

- ・シンポジウム登壇者について：第1候補は、向井先生，呉先生，高橋先生とする。

- ・会場は個別報告用に3部屋，総会とシンポジウム用に大教室を借りることとする。
- ・報告者の発表資料は事前提出を原則とし，会場側で準備したPCにて発表を行う。
- ・配布資料は，個別報告については各参加者の事前ダウンロードもしくは報告者の自己負担による紙媒体の配布を検討する。シンポジウム報告については，紙媒体の配布を含めて検討する。
- ・現地で大会の広報については林田委員が日獣大会時を参考に担当する。会員拡大活動については，植木副会長と呉委員が中心となって進める。
- ・参加費については，正会員2,000円，学生会員1,000円，非会員2,500円とする。

---

## 4. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ

『共生社会システム研究』第17巻は，2023年9月の発行を目指して論文審査・編集を進めています。2022年度大会（東京大学）のシンポジウムに基づく論考を掲載します。

『共生社会システム研究』第18巻への投稿原稿を募集します。ふるってご投稿下さい。締切日は2023年11月1日（水）です。締切日を過ぎての投稿については，次巻（第19巻）掲載の原稿として取り扱いますので，あらかじめご承知おきください。また，所定の字数を超過している原稿は受け付けず，修正を求めます。締切日直前の投稿だと修正が間に合わず，次巻（第19巻）掲載の原稿となりますのでご注意ください。

投稿にあたっては，指定のフォーマットを使って原稿を作成していただきます。このことを含め，当学会ウェブサイトに掲載された投稿規定，執筆要領をよく読んで原稿を作成し，投稿してください。ご投稿の際には必ずご確認くださいませようお願い申し上げます。

原稿の送り先：

東京大学大学院農学生命科学研究科

『共生社会システム研究』編集委員長 安藤光義

E-mail: ando☆g.ecc,u-tokyo.ac.jp （☆を@に変えて送信してください）

---

## 5. 学会内研究会について

会員の日常的な研究・交流活動を支援する目的で，会員が運営している研究会を，「共生社会システム学会内研究会」として承認・支援しています。詳細は学会ウェブサイトの「研究会」のページをご覧ください。

現在以下の二つの研究会が活動しており，宇都宮大会でもワークショップを開催予定です。学会内研究会として運用したい会員の方は，運営委員長の岡野（i-okano(at)cc.tuat.ac.jp）までお問い合わせください。

共生社会システム学会「人と動物の共生」研究会

（世話人＝高橋宏之，大和淳，大倉茂，朝岡幸彦）

いずれ動物園と水族館は，いま私たちが観ているものとはまったく違ったものになるかもしれない。動物園と水族館には，保護・研究・教育・余暇という4つの機能があることが知られている。まだ日本では極論扱いされている「動物園・水族館廃止」論の理論的バックボーンとなっている動物倫理学の主張の中には，現在の動物園や水族館を「動物虐待

施設」と断定するものもある。確かに動物園も水族館も人類や国家の活動が地球全体に広がる歴史的な過程で生み出された社会的装置であり、ふだん目にすることのない珍獣・奇獣を生きたまま展示して、人びとを楽しませ、この世界のあり方を学ぶ時代は終焉を迎えようとしているのかもしれない。

どうも私たちは現代の価値観や技術の水準に合わせた、まったく新しい動物園・水族館のあり方を模索しなければならないのかもしれない。すでに環境エンリッチメントなどの視点から、動物飼育環境の大幅な見直しが進められている。だが、「動物の権利」論の立場はこうした飼育の改善自体が、動物を本来生息する環境から切り離して(狭い、人工的な空間で)飼育しなければならない必然性はすでに存在しないはずだと提起する。

こうした動物園や水族館における問題の外側（もしくは内側）には、食用の家畜、役畜、ペットとの関わり方の問題も広がっている。

本研究会は『動物園と水族館の教育』（学文社、2023年3月刊行予定）の刊行を契機に、動物園・水族館のあり方を一つの手がかりに、今後の「人と動物の共生」のあり方を幅広く議論したい。

今後、各月（4,6,8,10,12月）で第2火曜日の夜に開催予定である。

世話人連絡先: 高橋宏之 (千葉市動物公園) htakahashi.czp(at)gmail.com

(共生社会システム学会関西) 共生社会研究会

本研究会は2013年の共生社会に関するシンポジウムを準備する中で発足しました。その後、共生をテーマとする幅広い報告と学際的な論議をする場として40回以上開催しています。シンポジウムの成果として橋本俊詔編著『共生社会を生きる』、その後の研究会の中間報告として、宝月誠監修／福留和彦・武谷嘉之編著『共生社会論の展開』の2冊を上梓しています。

多様な専門分野の研究者が参加していることで、幅広い視点からの議論が展開されています。

概ね、年間5回の開催を目処としています。コロナ禍ではオンラインでの開催に踏み切り、現在ではハイブリッドで全国から参加していただけるようになりました。学会員各位のご参加をお待ちしています。

事務局連絡先 武谷(taketani(at)nara-su.ac.jp)

---

## 6. 運営委員会事務局だより

昨年末より、宇都宮大での大会を含めて今後のシンポジウム等の検討が進められてきました。特に柏副会長を中心とした企画委員会の理事の方々本当にお疲れさまです。おかげさまで大会の見通しが立ってきました。久しぶりの全面対面の大会の実現に向けてみなさまよろしく願いいたします。

広報活動や、学会誌掲載論文のJ-Stageへの掲載についても今後議論を進めていきます。本学会の特色を活かした活動を展開していきたいものです。みなさま引き続きよろしくお願いいたします。

※事務局では会員の皆様からのニュースレター原稿を募集しています。会員の活動紹介や、会員が執筆・翻訳した著書・論文の紹介等も歓迎します。詳細は運営委員長の岡野 (i-okano(at)

cc.tuat.ac.jp)までお問い合わせください。

---

## 7. 会費納入のお願い

2023年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 20,000 円となっております。2022年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

また、住所、所属先、メールアドレスに変更がある場合は、連絡をお願いいたします。

共生社会システム学会ニュースレター 第31号 2023年4月14日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-3-3 木下ビル4F

農林統計出版株式会社 内（担当：稲村）

TEL 03-3511-0058 / FAX 03-3511-0059 / E-Mail: inamura(at)angel.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-6-372850 （加入者名）共生社会システム学会